

2026 年度 仙台青葉学院短期大学 ビジネスキャリア学科  
学校推薦型選抜(公募推薦) 入学試験問題  
小論文

|      |    |
|------|----|
| 受験番号 | 氏名 |
|------|----|

[問題] 以下の記事を読み、設問に答えよ。

2024 年夏、コメの小売価格が上昇し一部のスーパーの棚からコメが消えた。7～8 月と事態は深刻さを増したが、農林水産省は「コメは足りており、やがて新米が出るので心配はない」とのメッセージを出し続けた。この事態を「令和の米騒動」と呼ぶ人も現れ、新米が出回る 10 月以降も高値は続いている。

騒動の原因は基本的には需要と供給のミスマッチにある。供給側では猛暑で白濁米が増えて 1 等米比率が低下し、主食用として流通する量が減少した。需要側では、食品価格が上昇する中で相対的に割安感のあったコメの消費が伸びたのに加え、新型コロナウイルス禍の収束によりインバウンド(訪日外国人)が増加し、外食需要が増えた。

コメの不足感は 3 月ごろからじわじわと流通業界に広がっていたが、5 月ごろに高い価格でのスポット買いが進みはじめた。小売店での販売制限がみられるのは、6 月の民間在庫が 156 万トンと発表されたころからである。前年同期より 41 万トンも少ないことから流通業界に不安を与え、各所で防衛的なコメ確保がみられるようになった。

そこに南海トラフ地震の臨時情報や長引く台風 10 号の影響で消費者の買いためが進むと、一気にコメ不足不安が顕在化した。100 万トンある政府備蓄米の放出も促されたが、市場に出てくることはなかった。

この騒動は、起こるべくして起きたと私は捉えている。我が国の農政が国内需要だけを見た縮小均衡策をとっているからである。(中略)

今回のように、生産は順調なのに猛暑で流通量が減ったり、需要が増えたりといった予期せぬ事態が生じると途端に均衡は崩れてしまう。そうなった際、本来は政府備蓄米がバッファー(緩衝)役を果たすことになっている。今回は新米が出てくる時期でもあり、よほどの不作時にしか放出しないものとして見送った。

(中略)

我が国の稲作政策の基本は、米価の維持にある。需要減少に合わせ、減反で生産・流通量を減らす需給均衡策を半世紀にわたりとってきた。減反・転作政策には毎年およそ 3000 億円の予算が使われている。

ここにコメ騒動の最大の原因と稲作農政の課題がある。一見農家にとって良さそうな米価維持政策は、実は予期せぬ事態に弱く、中長期的には稲作を衰退させる政策だからである。  
(以下省略)

出典：『稲作農政の課題、コメ輸出へ大規模化を促せ 大泉一貫氏 宮城大学名誉教授』、日本経済新聞 朝刊、2024 年 10 月 22 日、一部改変

設問 1. 記事を読んで、はじめに「令和の米騒動」とはどのような事態を指すのか述べ、次にその事態が生じた経緯を述べなさい。  
(400 字程度)

設問 2. 記事を読んで、価格が「高いコメ」と「安いコメ」について、どちらを選択するか。品質、産地、農家の収入、持続可能性、倫理的消費等を踏まえ、あなたの選択について述べなさい。  
(400 字程度)